

雲陽志

飯石郡上下十四

和書門類			
二九二九一	二九二九一	二九二九一	二九二九一
一三九一	一三九一	一三九一	一三九一
一四	一四	一四	一四
冊	架	函	號

內閣文庫			
一七五函	二九二九一	一四冊	和書類
九架	一四冊	二九二九一	號



地四二

內閣文庫	
番號	和 29291
冊數	14 (14)
函號	175 135



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



丙乙

飯石郡上下

雲陽

誌目錄

飯石郡上

下熊谷 上熊谷

三刀屋 給下

萱原 伊萱

案田 尾崎

栗谷 殿川内

大谷 屋内

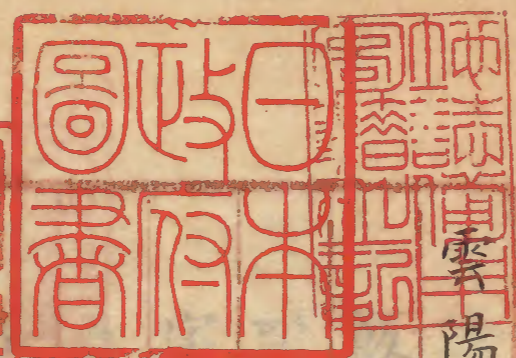
法師田 根波

里坊 多久和

中野 六重

神代 川手

須所 多祢



内一〇九九八號

掛合

軒外

中

望

大谷

栗谷

栗谷

栗谷

栗谷

栗谷

栗谷

栗谷

栗谷

飯石郡

飯石

飯石

飯石

飯石

飯石

飯石

飯石

飯石

飯石

飯石

飯石

飯石

○九九八號



下熊谷

風土記に熊谷郷郡家東北二十六里今

路にして四里十二町なり下熊谷上熊

谷伐合て一郷とて古老傳に日久志奈

太美と麻奴良比賣命任身て産す

時子およびて生處を毛とむ今時此所  
いよと来て詔てなる久麻々志  
枳谷ありと此よまふ故に熊谷といふ  
九社大明神

祭日十月十日

八幡宮

勸請年歴いまま考ふ

鹿島明神

辨才天

天神

荒神二ヶ所

利生寺

禪宗刑谷山と号は本尊薬師如来

高福寺

禪宗

慈眼寺

真宗西本願寺汎本尊阿弥陀闍基志也

願正寺

真宗東本願寺汎本尊阿弥陀慶長筆中

比闍基なり

道念寺

浄土宗

松林寺

真宗

文殊堂

熊谷水

福渡といふ所に熊谷某居住其子誕生此時此處より産水を汲きてこて杉を植ゑたりとせし故に土人名とて熊谷。由緒未詳也

松林山

此所は烏帽子かけといふ山あり古老傳に云駒形明神往昔爰に鎮座なり故ありて上熊谷へ遷宮其舊跡なり

駒形明神

久志伊奈太美命伐まつる延寶七年建

立の棟札あり

八幡宮

永禄元年立原備前守幸隆新建此棟札あり祭禮六月十五日十月十五日兩度の神事なり

龍王社

若宮

元宮八幡

幸神

荒神十ヶ所

雲泉寺

禪宗熊谷山と号し本尊薬師開基分明なり

正福寺

禪宗

过堂六ヶ所

古城

城主いゆま考也

古城

城主志ら也

大川

日野川といふ上熊谷より西日登へ此

渡りし所を小野瀬といふ

三刀屋

三刀屋郷郡家東北廿四里今志路よりし

下四里なり天下伐造をまふ大神此御

古門此所よりあり故より三刀矢といふ神亀

三年字伐三刀屋とあらむ御門屋社

あり三刀屋所給下伊萱安田尾崎粟谷

殿川内大谷屋内法師田根波里坊此十

二ヶ所伐一郷と云和名鈔より草原此郷

と書也三刀屋所の東より今萱人萱原也

いふ所あり是なり屋

一宮

風土記に載る御門屋社なり延喜式より

三刀屋神社と書也素盞鳴尊稲田姫を

まつる脚摩乳牟摩乳伐まつる文安二

年三刀屋此城主市川竹壽丸大江朝臣

再建此棟牒あり祭日九月十九日  
古老傳に云昔當社焼亡る故に證文縁  
起紛失せり

荒神

善徳寺

真宗本尊阿彌陀如来開基ハ多賀氏  
に寛永十年洪水此とて寺寶悉流失せ  
り此寺東に日野川此流より西に三  
刀屋川古壘の跡あり南に三谷山高  
北に峯寺此梵宇あり誠ニ遠望の絶景  
なり

古城

弘治三年毛利元就當國發向此時此城

を攻めま新城主三刀屋彈正忠質氏  
を和せ乞て解ぬ

川

廣六十八間

給下

祇園社

素盞鳥尊代傳つる

八幡宮

新八幡

若宮

荒神五ヶ所

峯寺



真言宗古儀派中嶺山阿舍院と号す本  
尊大日長二尺五寸定朝此作なり抑當  
山に役行者此開基して本堂南向客殿  
庫裡十三間根本堂四間四面本尊正觀  
音長二尺五寸行基此刻彫なり永祿七  
年三月屋彈正忠久扶慶長三年大江朝  
臣修造此棟札あり毎歳正月二日五月  
六日七日天下國家此平安代いの弘行  
者堂一宇二間四面萱葺なり至徳三年  
役者此像を刻彫して同四年此堂建立  
せし鎮守に藏王權現なり本社南向和  
州吉野此藏王權現代役行者勸請し句  
ふ所なり祭禮十月朔日老若男女并謁

寸弘者おとし社ハ深山茂樹此間あり  
了其半腰より二丈餘此飛流みよきて  
絲此大と七見をりせ石奔泉と成り巖  
頭に落波練代翻露玉を摧り是より護  
摩堂より弘本尊不動明王長一尺五  
寸脇立愛染明王如来荒神なり鐘樓あり  
了寛永十七年の建立辨財天荒神此小  
社負享元年住侶快意此造營仁王門南  
向像長一丈の新佛なり本堂に龕あり  
多六町此坂路を下て三間其長六四町  
の馬場あり爰より長七尺の石地藏を安  
置す山下小齋王山大坊と稱して寺あり  
り本尊地藏菩薩長一尺五寸古佛作あり

梅窓院 山伏此坊也

禪宗案田山と号本尊釋迦如来左右

文珠普賢運慶此作正忠久扶鎮守杵築大明神代勸請

同安寺

萱原

王子權現 天正年中三刀屋彈正忠造營祭月九月

太神宮

天神

神前清水而旱魃此年神靈故小里氏天滿谷清水と賞翫

荒神二ヶ所 淨土寺

淨土宗國豊山と号本尊阿弥陀 妙法寺

法華宗正立山といふ本尊釋迦多寶 西雲寺

真宗東本願寺此末派本尊阿弥陀古洪水の時縁起證文悉失却故開基此

觀音堂三ヶ所 年代志此

大泉寺正林寺といふ寺名舊号今なれ  
殘侍所

毘沙門堂  
天照院と号す

釋迦堂  
願正寺といふ

藥師堂三ヶ所

伊萱  
杵瀬大明神

神号いさゝ考す祭日六月十五日九月  
廿九日なす風土記に載る井草社は外

る一し元禄年中建立

市守大明神  
風土記に毛利社見へし斯一森明神

荒神六ヶ所  
西光寺

禪宗本尊藥師  
長巖寺

禪宗瑞應山と号す本尊聖觀音鎮守天  
神勸請をす社前古藤あり蔓延し

て華表をこし土人藤比鳥居といふ  
後山に経塚あり南に天皇比御廟あり

由来をきき傍に山櫻あり樹根に石櫃  
あり是は何人此所爲しや詳るるに

觀音堂

伊我山

風土記に載る所なり麓に川あり廣長  
北土午神門への往還なり

案田

田中大明神

伊弉册尊成す所風土記に載る田中  
社なり田中原にいふ所に鎮坐故に稱  
する

八幡宮

荒神七ヶ所

久圓寺

禪宗万松山と号す本尊如意輪觀音鎮

守荒神代傳つる

專應寺

真宗西本願寺派本尊阿彌陀開基也

過堂二ヶ所

尾崎

天神宮

三刀屋北城主彈正忠源久扶此造立なり

了天和五年堀尾修理再建此棟札あり

祭禮八月廿五日なり神寶として鎧弓太

刀一腰三条小鍛治宗近、作豊臣秀吉

此寄進なり

川邊社

嚴島大明神代勸請之風土記延喜式に  
載ふ川邊神社是なり古記に云出雲國  
飯石郡三刀屋郷川邊社正殿市杵島姫  
北殿田心姫南殿湍津姫三神なり祭禮  
九月中十日なり野見木見石といふ岩  
に此所ありり里俗鬼岩といふ嶮岨小  
しててはハハ鬼形に似たり是すも  
ち神の幡立夕ふ處なり幡咋山奈倍山  
に此近隣るに故に當社を幡咋明神と  
号し奈倍山明神と稱す社司語ける  
天平年中夏に旱魃を土人雨をぬ

ふ仍聖武天皇よ了大なる釜伐せま

を了湯立し雨をいのりけきハ霖雨鳴

又鳴として五穀豊饒なり是よ了世俗鋤

山明神と号せり三刀屋川の邊に釜伐

納ふ所あり今よ了釜淵といひ

傳て清浄の地なり神諫とて

千波屋振國土伐守神なり

百姓をおかしみころ

熊野權現

此社邊伐成木といふ古戰場なり今も

古太刀短刀鋸錢なる堀い

金山彦神社

山王社

惠美酒社

荒神

古城山

近來堀尾修理在城

粟谷

吉備津明神

風土記に粟谷社あり是なる處に縁起

なし故に遷坐勸請志色也

八幡宮

天神

荒神

薬師堂

辻堂二ヶ所

殿川内

出雲居明神

社司此傳詳るり也

籠守明神

天文永祿尼子佐々木造立此棟札あり

山王

荒神

辻堂八ヶ所

大谷

荒神二ヶ所

蓋 屋内

飛石明神

縁起古記なけきも申来分明なり本

社三尺あり

大歳明神

山小社なり

荒神三ヶ所

地藏堂

薬師堂

毘沙門堂

古塚

塚頭老樹茂生せり由来志れ

薄紙

民家紙洩漉出

法師田

延山明神

金山彦命をまつ二尺小三尺此祠

了いつきの時勧請するや志れ

荒神四ヶ所

万福寺

禪宗本尊観音開基志

薬師堂

过堂

古塚

由来志

紙

此所了了白紙伐澆いせし土人此産と

根波

大井權現

速玉男を詣つに寛文二年造營祭禮九

月廿九日

釵明神

何神をまつるや傳記いまゝ考て祭禮

九月廿九日祝詞伐讀神樂を奏て

權現

社職此傳分明なりて祭禮十月廿四日

郷人群來神を拜て

稻荷

神事右同日小祭り祭十一月廿二日

森山權現

過場つる所此神号いまゝ考て

荒神并平所四ヶ所立てて祭禮八月廿

幸神三ヶ所

過堂十ヶ所

佛岩

高才一文横二間此岩根に佛像伐掘

出しを起といふ里坊村へ此路左の方

古城

古城



寺取号城主志之也

堤二方所

瀧出上寺江心口北里社林へ北野五ヶ所

鐵山十一ヶ所二間北里社林へ北野五ヶ所

土堂林里坊

若宮三ヶ所

本社四尺四方建立志之祭禮九月廿

九日（神事）

稻荷（神事）

二尺四寸此小社なり祭十一月初午の

神事

客明神（神事）

本社拜殿葦表頽破して今々なし十月

廿二日神事（神事）

荒神十六ヶ所（神事）

幸神（神事）

过堂九ヶ所（神事）

權原（神事）

神門郡蘓原戸倉此城攻の時此原小軍

勢屯志（神事）

多久和（神事）

風土記（神事）

載（神事）

飯石郡（神事）

多久和中野六

重神代川年此五ヶ村をわをせて一郷

と也

飯石社

往昔一石墮高さ三尺四寸あり其周圍  
高きは適其形飯を盛りこきし故に其  
地を稱して飯石といふ古記に云伊弉  
志都幣命天より此石と降まつて鎮座  
し夕ふ往年石より倚て社あり風土記延  
喜式に載しあり乱世を経て以来俗微に  
風衰社廢し祭絶ありといへと元石  
や窟固として動き今小いよりて存せ  
り黎民はとくく神を敬し石は故あり  
るを為て社を再建し毎年九月十五日  
七坐の神事湯立獅子舞御幸流鏑馬あり  
り由来縁起は詳なり

八幡宮

寛永九年堀尾山城守建立此祠なり祭

禮八月十五日

稻荷社

託和社

風土記に載し吉備津明神を傳つる  
古老傳に曰多久和城主秋上伊織之助  
建立の社なり天正十三年毛利大藏再  
建の棟札あり慶長二年拜殿歌仙志繪  
大江朝臣寄附し夕ふ毎年十月十三日  
祭禮あり五年に當て大元舞とて夜神

立樂あり

杵築大明神

建立年歴を託和比社の末社なり

祭日十一月八日

荒神三ヶ所

壽福寺

禪宗飯石山と号す本尊阿弥陀春日の  
作なり四間四面を觀音堂あり觀音は  
春日の彫刻當國順禮札所なり十二番なり

玉正寺

本尊觀音小菴なり

藥師堂

中野村への往還なり

法泉寺

本尊虚空藏

过堂五ヶ所

古城山

元龜元年正月十一日吉川小早川推寄  
了操勤王城に守禦人秋上伊織之助尤  
道理人おとろき城に火を擡て落去山  
中鹿之助を富部の城に引退富田志園  
を解しけり

古城山

王子といふ城主以てし志きす首塚と  
て圍二丈はり了の老松あり六世入道

高蘆山

東々上熊谷西々六重村南は神代北々  
託和なる麓より山上まで十六町此高  
山あり

瀧

雄瀧雌瀧とて二流あり瀑潭廣さ十間  
四方南小権現平といひて小社あり土  
俗平地を略して平といふ七月七日此  
宮伐漏つる社家の説より飯石明神来遊  
しゆふとなり東小屏風岩とて高き三  
十丈此立岩あり

神在淵

古々廣大此淵なり年々埋て當時々田  
となる此邊小御幸此櫻あり由来これ

飯石小川

風土記小載る佐久禮山より北小流三

刀屋川に入りあり多久和川此ことな

り佐久禮山ハ六重村此多伎坂山をい

ふ神代託和栗谷三刀屋小なる

大石

土俗くちなは石といふ石面二間并小

一間羊あり中野村へは通路右此方

瀧坂

多久和より六重村へ此往還なり坂此

間八町とかり

白紙

此所... 紙... 漉出...

中野

蛇一權現

神号... 考... 慶長四年... 大江朝臣元... 幸建立此棟札... 祭日九月十七日

熊野權現

古... 棟札... 文字... 故... 勸請遷... 官分明... 祭禮九月十八日

八幡

熊野權現

荒神八ヶ所

正藏坊

真宗西本願寺末派本尊阿弥陀長二尺

三寸開基志色片

浄木菴

禪宗本尊觀音

真徳菴

禪宗本尊釋迦如来

中光寺

禪宗本尊阿弥陀

辻堂

大久菴といふ觀音を安置也

石佛

六重村へ此通路右にあり

寺跡

比丘尼寺此舊跡あり東西五十間南北  
百間の芝原あり

古城山  
城主志きき

古城山  
とやう丸堂毛利家志陪臣守る城なり

蛇一瀧

飛流十間とかり六重村への通路左此  
方日谷の奥なり

鐵山

大谷山といふ  
白紙

此所此土人紙を漉

古越山六重  
伊昆津明神

風土記に飯石社二社あり其一社は是る

天和二年己未の棟札あり祭日六月  
十五日九月十九日

八幡宮  
慶長十五年再興此棟札あり祭禮八月

杵築大明神  
祭社地は荒神あり

大歳明神

若宮  
籠守權現

永正十五年建立棟札あり祭禮十月十日  
五日八幡若宮此祠あり

國墓明神

神号いまま考祭日十月十六日

貴船明神

大歳明神

釋迦堂

大日堂

古城山

麓に五所あり城主志れ

神代

久仁加羽加明神

風土記に載る神代社なり

地藏堂

毘沙門堂

高杉明神

神号いまま分明なり

縁起なし故に鎮座年代志に寛文元禄建立此棟札あり祭禮十月九日なり社の前小天の淵あり此所より二所より下より大蛇の帯石といふ大岩あり過る者疎然

八幡宮 祭禮十月九日  
大歳明神 祭日十月十日  
牛頭天王 祭禮右同日  
早立權現 祭禮十月八日  
神号いまま考考祭禮十月八日  
過堂  
八幡宮  
須所  
八幡宮

縁起古記なし故に遷座為去在祭禮十

六月十一日

大歳明神

應永廿二年建立祭日右同日

荒神四ヶ所

妙吉寺

法華宗大法山と号本尊釋迦多寶京

都要法寺開基日尊上人建立此寺なり

境内に地藏堂鎮守の社あり辰巳の方

に番神山あり日尊上人小石に經文伐

書ておさめぬ所を經塚といふ今も

老樹繁茂せし

過堂二ヶ所



上  
多祢

多祢とて天下に造所此大神大穴持命  
と少彦名命と天下に巡行す時稲  
の種此所小墮故小種といふ神亀三年  
字を多根とありし掛合松笠坂本七  
多田加食田宮内吉田に合て多祢一郷  
とて風土記に多祢郡家とありし掛合  
此内郡といふ所なり和名鈔小田井郷  
と書す此郷内吉田曾木上山仁多郡  
此内上所井の田井湏山志邊に加て田  
井郷なり

六所明神

社職傳て大己貴命をまつ永祿天正

造營此棟札あり祭禮九月九日なり社  
邊に明神と御腰掛松とて老樹あり

星原明神

天文十年より元和年中まで造立此棟  
札あり天文以前の勸請なり祭

禮十月十一日

八幡宮

祭日十月十三日

天神

祭日右におなし

熊野權現

祭禮十月十二日

荒神十二ヶ所

圓通寺

天台宗卧龍山と号す本堂三間四面本  
尊如意輪觀音行基を彫刻なり當國順  
禮札所の十一番なり佛殿本尊不動明  
王聖寶上人に開基山王此社あり里老  
語て曰八岐大蛇此山の麓萱野池に  
頭伐老松に掛尾ハ二所あり外に  
了其所伐今にいり土俗と、子尾に  
いふ口より霞を吹出し是る所伐霞村  
と号す大蛇にまつて此寺を卧龍山と  
名づく

善福寺

真宗本尊阿弥陀春日此作

过堂十四ヶ所

永離菴芳樹菴國正院此三ヶ所舊号あり

古松

園一丈七尺土人蛇あり松といふ古  
八岐大蛇頭を掛しと斯樹ならむ圓通  
寺に二所あり北にあり

掛合

勝手明神

風土記に載る狭長社是なり大和國吉  
野山勝手社に愛鬘命なり當社を  
し神なる一し縁起るし故に分明なり

老祠官語て曰古此神鳥帽子岩此上  
鎮坐し白ふ其後狭長小遷宮して本  
社門客人鳥居天正年中多賀與四郎道  
定造立此棟札あり祭禮九月十九日御  
幸獅々舞流鏑馬十月十七日夜神樂あ  
り末社と稱して三社あり稻荷新八幡  
なり斯新八幡と日倉城主多賀道定の  
靈をまつり了といひは老ふ近臣七  
人と脇立と云  
天神  
此所を宮此段といふ三尺は二尺此祠  
若宮

権現

高山あり三尺をり了る小社あり由來

王子権現

大正森

此神何此号といふことを考ふ後此君  
子を待

荒神廿八ヶ所

宗圓寺

禪宗一涌山と号す本尊薬師開基と云  
日倉北城主多賀與四郎道定の寺

浄光寺

禪宗本尊觀音

勝願寺

真言宗本尊觀音

專正寺

真宗西本願寺末派本尊阿彌陀長二尺

觀音堂

古々宗源寺といふ伽藍なり今ハ寺なり

古塚

多賀與四郎此廟なり

觀音堂

弘福寺といふ本尊石佛なり土人弘法

對の作といふ

辻堂七ヶ所

古城

日倉山といふ多賀與四郎道定此居城

なり風土記小日倉社あり此山上小坐

古城

古城主志きなり

古城

古城主志きなり

町

近村此買人群集して市を催なり

漆原坂

坂路六町

鷹巢坂

高山なす坂路七町

野多原

五町四方芝原なり

花屋水

此井清水なす夏日いよ乾者おし

瀑泉

多根村境土人雄瀧といふ高さ二間横

四間魚切といふ所あり是より魚あ

ることなし

雲陽誌目録

飯石郡下

松笠 坂下

乙多田 加食田

宮内 吉田

深野 上山

曾木 民谷

須佐 朝原

反部 原田

木呂 八幡

穴見 入間

竹尾 波多

志津見 八神



角井 刀祢

獅子 上来島

中来島 下来島

赤名 佐見

頼原 花栗

長谷 都加賀

曾木 大谷

山 山

山 山

山 山

山 山

山 山

飯石郡

松笠

天神社

菅公茂まつる天文年中子寛文子八  
造立修覆此棟札あり祭禮十月廿五日

此山烏帽子此形なり故里民烏  
帽子山といふ高さ三十間七ッ子横六

十間の巖山なり  
瀧明神

祭禮十月八日神樂湯立あり

荒神二ヶ所

西藏寺

真言宗

明泉寺

真宗西本願寺末汎本尊阿弥陀開基志

古壘

松笠山といふ城主志

鳥屋丸

此所と云り丸といふ来歴志

川二ヶ所

後垣内といふ水の徑六間殿垣内といふ徑五間急流なり

土午

長さ百五十間土人ふけ田といふ

龍頭瀑

掛合と云り須佐への通路左の方瀧坂の  
のり了華表の前より岩下小いふ此  
所を龍頭と稱して瀧あり高さ三十三  
尋潭北深さを亦然なり臣岩屏風の  
とく引圍古樹千尺天伐蓋へて視あ  
きく瀑布乱て糸此とく視をるせば  
奔泉と成て溪間より落素練伐皤白玉  
飛せ了岩面の窟中十間四方此より瀑  
潭はば、怪岩奇石一瞬心也な  
ちかしく戦々として足下を危此邊幽  
壑此中より瀧明神社石地藏を安置

青苔壇の不足老杉傍に生じ其下に  
雌瀧あり此間四五町をり不潔此者  
いふるをを得て山路葛藟九曲極て  
険坦なり實に一國此勝境なり

礫岩

岩此周圍四間俚民瀑明神志飛礫岩と  
いふ

蛇岩

高さ廿五間龍頭に七町をり下な  
り

鏡石

石面一間四方黄色にして鏡此形の  
とし

矢立潭

瀑下に十五町下小四間四方此潭あり  
土俗相傳て云往昔大蛇有り瀧明神是  
を射しよふ其矢此中を家所なり

鐵山

坂本

大歳明神

稻荷

荒神五ヶ所

过堂四ヶ所

乙多田



八龍明神

荒神四ヶ所

辻堂四ヶ所

鐵山

加食田

大歳明神

縁起證文なし故に勸請志を

古城

土人此山伐とやり丸といふ大塚土佐

守習いふ者此城跡なり土佐守の傳い

まゝ考を

姫子淵

古老傳小云大塚土佐守女此淵に身伐

逃て死を故に淵の号とを

若宮

大塚土佐守此女を海つりよ

荒神

平家城

城主志を

禪定寺

天台宗慶向山と号を人王四十五代聖

武天皇御祈願此梵宇行基菩薩草創の

靈場なり根本堂三間四面本尊觀音行

基此自作國中順禮札所の十番なり開

帳三十三年あり村老語て云往古積

雪人馬の通路を絶たし僧侶飢渴し  
およべし観音告て曰明朝佛前小麻来  
へし是を食せよと夢覺て翌日麻伐得  
し則肉をききと毛あへて走去を然  
よ齋此土人米穀を運送を故に鹿肉伐  
捨むを欲れと忽栢此木を變を僧侶奇  
異なるとして本堂をひらき觀音を拜  
すきと忽尊像の左此股小新き疵あり  
今小いとして彩霞伐くをへてなる  
佛殿の本尊不動明王是又行基此刻彫  
なり文禄年中佐世石見守寺産奇附の  
證文あり其後太守源直政公よ了當太  
守よて御代々志御證文あり

辻堂二ヶ所

宮内

八幡宮

此所を日倉といふ本社五間隨神門天  
文廿二年國主源誠久上棟此札あり祭  
禮毎年八月十五日近隣此社司群衆し  
て七坐の神事あり往古兵火此にめし  
本社神寶焼込を鎧一領太刀一腰矢一  
手寸鎧五歩大塚土佐守此寄進なり  
未頭宮  
神号いま考は八幡志未社なり  
大歳明神

藏王權現

万歳宮

北尾明神

稻荷

若宮

本社建立年歴未詳也

大歳明神

何人此勧請する也いまし詳ならず

牛頭天王

此神社日倉八幡社未社なりといふ

幸神

小社あり

荒神十三ヶ所

真如寺

日倉山と号す

辻堂八ヶ所

大歳吉田

八幡宮

此所三田原といふ故三田八幡

稱其古老傳云此神近江國より勸請

黄牛谷に舊宮此跡あり縁起古記に

故に遷坐の年歴未詳佐々木氏此營

作せらる近江に佐々木此領國此州を

亦氏族おとしよつて江州より遷坐と

いふならひ祭禮九月九日

脚摩乳社

本社此傍に神北御腰掛にて老松繁茂  
世了神前池あり到て清冷なり神寶と  
稱て鏡一面八寸四方神代より傳來也  
祭禮九月廿九日

權現社

棟札あり文字分明なり由來志  
祭日九月十九日

大歳明神

此所を杉戸といふ故に里民杉戸明神  
と号す祭禮十月七日なり或人此日風  
土記に載る多加社は是なり

松童社

菅谷といふ所に鎮坐なり古日倉八幡  
此宮より勸請をといふ毎年十月十九  
日吉田民谷兩村の中より松童神樂戎  
催て八人此乙女五人此神樂男神事を  
行

内方八幡

里俗惠美酒此社といふ縁起古記なし  
故に由来詳るる祭日十月十五日

金屋子神社

金山彦命をまつる祭禮四月十一日九  
月十一日

栗原八幡

祭禮十月十日此所次川尻といふ

荒神五ヶ所  
長壽寺

禪宗吉田山堂号本尊阿弥陀聖徳太子  
此刻彫なり寺内観音堂一字あり

慶生菴  
禪宗本尊薬師

洞雲齋

禪宗千箭山堂号本尊観音弘法大師  
此彫刻なり

西福寺

真宗東本願寺末派本尊阿弥陀なり  
圓壽寺

真宗西本願寺派本尊弥陀創建志也

过堂九ヶ所

古城

而乙め山といふ城築年代志也

古城山

城主志也

浄土谷

此所古四十二坊あり今々なし浄土寺  
此舊跡なり

兒此淵

古老傳云浄土寺此兒此淵子身を沈  
て死を是をいふて兒の淵といふ近邊

の山此兒淵山と号也

須我谷

風土記不載弘葦廉社此所あり

坂 兒淵川此下あり

木王池 長了十町

古此所小老樹あり何時枯て其樹の

俗大木茂稱して木王といふ分明な

鐵山

深野

天神 社家者流國常立尊とまつるといふ傳

八幡宮 記縁起れ故に神系分明なら祭日

祭禮 八月十五日

山王社 素盞烏尊茂まつる案す弘に風土記に

載弘深野社是なる魚し祭禮九月廿六

大歳明神 日七座此神事あり

三谷といふ所に鎮坐なり

荒神三ヶ所

辻堂三ヶ所

古城山

古城主いまま志世也

鐵山三ヶ所

上山

八幡宮

牛頭天王

素盞鳥尊なり

吉備津明神

吉備武彦命なり孝靈三世此皇子

八組大明神

素盞鳥尊なり風土記に載る上社は是なり

了古々別々社あり今々右此四神

相殿小由つり二月十日六月十五日

八月十五日十月十三日神事あり

若宮

大歳明神

荒神四ヶ所

善福寺

禪宗徳祥山と号す本尊釋迦闍基一山

祐知禪師年歴志を境内觀音堂あり

行基志作佛なり鎮守橋姫神社を造立

辻堂五ヶ所

鐵山

曾木

山神

大山津見神と海つゝ

荒神二ヶ所

辻堂四ヶ所

鐵山三ヶ所

民谷

王子權現

祭禮九月十九日村裡比氏神なり

石神社

此所巨石二あり神と稱を由来に

考を祭日九月十九日

清巖寺

禪宗万石山と号を本尊聖觀音

宇山

風土記に城恒野とあり今土人宗山

いふ

鐵山

須佐

風土記に神須佐能表命詔し

小國といへど毛國所あり故に我御

名者木石に著しあらはと詔而即已此

命の魂鎮置し然して大須佐田小

須佐田定むる故に須佐といふ宮内朝



原反部大路原田入間竹尾穴見等須佐  
一郷と云

夫木すされをの尊代いのる七毛なり  
しこへて地見まし浪の八重垣

須佐大宮

日本書紀に曰素盞烏尊此處小いし  
夕い吾心清々し彼所子宮を建つ是子  
了清地といふ清地爰子素盞といふ本  
邦古来此通稱なり素盞烏此垂蹟異論  
あふ屋ららる由来縁起子詳なり本社  
二間四方朱欄石階前子あつて穆々  
了拜殿車倚火焼屋神馬閑和幣飄々と

して瑞籬長く華表高し南小天照太神

此宮あり年中兩度朝覲此祭何り尊を  
尊とするの儀を示す後小稲田姫の社

是素尊の婦なり其社を屋つるに也  
之夫婦別あふの義代表しあふ左に五

男右に三女此社あり右大将頼朝此新  
建なり其後足利氏政代執て恒式頼朝

此如し佐々木尼子毛利家子いふあま  
て皆例にまかた太守源直政公再建神

馬代獻しあふ地色よ了當太守小い  
るまた綿々望して萬世小尊一し本社

此前小池あり須佐能表尊自潮代くみ  
小田い此地をさよめあふ今毛池中小

志不見此類生せし是又潮のてすま  
ゆいし志るしなり老祠官此語けふ  
わ色ふゆり於呂志古山亦れなる宮  
尾山麓小養泉水あり是明神の御供水  
なり乾子なりるハ素鵝川其清冷他  
ことなり坤の山小劍明神此社あり是  
蛇伐断劍をまつる土人熱田の宮と号  
た所謂十束劍也蛇尾より出て草薙熱  
田の神なりあををて誤り劍明神  
ハ蛇伐斬の劍なり山間ハ頭巖と号す  
るありむりし素盞鳥鬼此首伐りふ處  
なり其他を地獄平といふ其側ハ流瀬  
川あり天神一女神を柏葉に比み斯

なりしゆふ故ハ流瀬川と稱す其柏  
樹今小於呂志古山此嶺上ハあり大  
牛伐かくて一女神也石見國橋の浦ハ  
なり色よらせぬいし伐當國日御崎ハ  
移きてまつり今ハ崇敬と申傳へ侍  
社司小雲次郎と号して代々祭祀と掌  
これハ神寶と稱て天國比大刀一腰尼  
子晴久の寄進太刀一腰毛利元就此寄  
附鎧甲弓羽山人道唐劍羊弓熊谷與右  
衛門寄進也

巖島明神

天岩戸社

熊野權現

高松寺

禪宗宮尾山と号す本尊地藏古佛作志  
き花寛永年中創建此伽藍なり  
过堂十一ヶ所

宮尾山

古老傳云素盞烏社往昔此山に鎮跡今  
礎石なりと云ふ

羽山城

羽山入道の城跡なり

墨山

高山なり羊腹平地あり古寺此跡なり  
といへとを由来と云ふ

古城

尾崎といふ城主と云ふ

古城

此ありといふ尾崎山此枝城なり

立花山

古壘なり守將と云ふ

瀧

尾崎此小瀧といふ高さ三間

瀧

釵岩此瀧といふ高さ七間  
西瀧といふ高さ八間

須佐川

風土記に載る琴引山と北にあり

来島波多須佐三郷我経て神門郡水工  
こなる此川なり

朝原

寶坂明神

何比神我まつるやいゆし考を或人曰  
風土記に堀坂山と記し此社頭山なる

河内明神

荒神森

御崎森

神主山

峯頭に巨岩あり里民天狗石といふ由

来詳なり

福泉坊

真宗本尊阿弥陀作志を寺内上乗寺  
と号する末寺あり本尊阿弥陀外に観音  
堂一字あり

辻堂四ヶ所

假山松

枝葉からかさ此古とし古老傳に素盞  
鳥尊此御腰松なりといふ

王院山

民家北古塚あり来歴いままに分明なら

奈倍山

風土記に載る名梅谷志山なり

鐵山 反部

叙明神

舊記小飯石郡反部村多部社あり此宮

河内明神

井村明神

八幡宮

神前より麓まで二町下より鳥居あり貞  
享二年大呂村より遷宮

辨財天

宇佐八幡

高矢倉の古城山に鎮座なり縁起なし

故に勸請志れり

稻荷

荒神二ヶ所

清真寺

真言宗檀獨山といふ本尊釋迦如来

久光寺

禪宗高瀧山と号次關山派なり本尊阿

弥陀開基あり

佛母寺

禪宗摩耶山といふ本尊觀音

石佛

秋森といふ所小安置を

过堂九ヶ所

古城

高矢倉山といふ尼子晴久此幕下本庄

越中守居城なり尼子敗軍の後此山落

城を毛利輝元の旗下熊谷與右衛門を

籠をりる

古城

屏風山といふ城主志きき

古城

土人小矢倉山といふ高矢倉志枝城を

了

飯森山

淀町

人家あり里裕余戸此市といふ

明谷

斯所魚切といふ岩あり神門郡乙立村

日境なり是また川舟来

ととなをり

三町あり嶮岨此坂なり乙立村への

路

いさけ此口

此川徑五十間神門飯石兩郡の落合を

了

淀此渡

此川神門郡八幡原へ渡二十間あり

一 瀧

是より鬼のむくろ岩比丘尼岩腰比し  
岩なるといふ所あり山上に観音堂一

宇わりの

原田

風戸大明神

由来鎮座詳ならず

白瀧権現

右におれし

万行寺

真宗本尊阿弥陀

辻堂九ヶ所

石山

其人岩菴といふ白瀧権現を社此所

社僧十二坊の舊跡あり

古城

矢嶺といふ勝部筑前守に居城なりと

下語侍と毛羊歴志を

於呂志古山

須佐大宮より八所南北方小丸山なり

土俗語て云日御崎を神御誕生此地な

り山頭は圍二丈ありこの柏樹あり故

御崎に神石柏の紋あり

流瀨川

古老傳曰日御崎に神代柏葉は津よみ

此川よりなりしと云ふ故に今も落葉  
浮て更になりきりなり

鐵山

大呂

布施儀明神

由来勸請志

河内明神

八幡宮

熱田大明神

正西菴

真宗寺号なし

古城

丸山といふ城主いまま考す

鎧岩

大長四丈余此岩川中にあは里民呼て

鎧岩といふ

八幡

安食大明神

神号いまま考す

穴見

権現社

風土記に載る穴見社はなり

天神宮



天本社一間小二間半

八幡宮

大歳明神

鬼城

此山巖窟あり土人鬼ヶ城といふ

入間

天神

菅公伐まつる本社二間余末社と稱し

丁 劔宮若宮あり鎮座いまま詳ならず

大歳明神

山神

長福寺

禪宗徳壽山と号す

竹尾

八重山

舊記に曰く色此雲此峯頭におこる素

蓋鳥尊あり色伐望視ゆい歌伐詠し

ふ誠小高山なり古木怪岩多八十尋飛

流長く數峯秀せり往時八雲山といふ

彼八色雲のおこゆ山なきてなり今俗

わやまりて八重山と稱す夜霸餓岐の

歌小ふり

兒瀧

高さ十間計あり

八重山神社

伊弉册尊此社なり里民権現の号是淳  
屠の陣言なり古来國人尊崇して海川  
子時花戎をまつり歌舞を延寶七年  
造營梁木此銘あり  
十二所権現

波多

波多都美命此天降坐す所あり故に波  
多郷といふ波多四津見八神角井刀根  
志師村を一郷と云

都類伎明神

波多都美命を満つる土人叙明神と書

八幡宮

本覺寺

禪宗壽福山と号す

浄園寺

真宗

明眼寺

真宗

光明寺

觀音堂なり

地藏堂

古慶徳寺といふ

古城

古城主志き氏

波多小川

風土記子志許斐山此北方流あり須佐

川子入とあり此川なり志許斐山

當所子あり

志津見

劔明神

八幡宮

妙見祠

八幡宮

大歳明神二社

川流明神

三浦つる神いま考氏社職毛詳なり氏

古城

森脇山といふ城築年代志き氏

川

徑廿間あり舟渡なり

八神

八幡宮

八面明神

三原明神

右三神を一社子配合して祭

立神社

高さ三文横二丈比石段神と号して崇

敬由由来分明なり

大山本神

園二丈より此杉を神木と

乙見社

本社二尺四方

森御前

由来詳なり

御領石

松童

園一丈此古松を神木と

住吉社

二尺四方此小祠なり

王子權現

馬御崎

此所此神いさゝ考

長福寺

江良山と号す土人大御堂といふ

神宮寺

土俗小御堂といふ

薬師堂

十王堂

観音堂

川

徑世間舟渡あり

堤三ヶ所

鐵山

角井

此處古雲石兩國の境佐比賣山北麓な

三瓶山

風土記に載る佐比賣山なり神門郡小

属也

三瓶原

八幡宮

八面明神

牛頭天王

閑龍

真宗北小菴なり寺号なし

南柳

存可

真宗寺号なし

大御堂

刀祢

劍大明神

金屋子社

薬師堂二ヶ所

堤

獅子

劔明神

風土記に載る志々乃社是なり

観音堂

上来島

伎自麻都美命生まを故に伎自麻といふ神亀三年字代来島とありしむ上来島中来島下来島赤穴佐見油来花栗長谷都加賀村と合て来島此郷と云

鐵内子宮

神号いまま考其博覧をまつ本社一間

福藏坊

真宗

幡咋山

小田此奥山なり風土記小毛載し

鐵山

堤六ヶ所

中来島

八幡宮

本社二間三間

明神

何此神代まつ系や野人老語いまま考

西光坊

真藏坊

真宗なり

岩樋

長三十五間岩切ゆき水と通る世

俗岩樋といふ

松崎板橋

古城

賀田山といふ城主志き

鐵山

野見木見石

風土記に載村裡の西北山なり

赤穴

八幡宮

本社三間四方末社佐田明神若宮比祠

あり

貴布祢社

天神宮

長三十一間

堤六ヶ所

鐵山三ヶ所

下来島

鏡社

土人明鏡といふ由来いま詳ならず

万善寺

禪宗龍雲山と号す

西連坊

真宗

稻荷社

本社五尺

明窓院

禪宗良田山と号す

大光寺

禪宗佛日山と号す

安養寺

禪宗圓通山と号す

山中寺

淨土宗西林山といふ

妙法寺

天法華宗榮昌山と號す

惠嚴寺

真言宗密久山といふ

高林坊

真宗

蓮光寺

真向寺

安樂寺

西藏寺

右いづきも真宗

薬師堂

瀬戸山古城

弘治三年安藝比元就當國發向比時此  
城攻め不城主與左衛門尉生とらき

侍ぬ



石穴山

備後石見出雲三國此境なり

堤十七ヶ所

佐見

龍王宮

本社一間四方

琴引山

風土記に見へり古老傳云此峯此窟  
裏天下伐造所此大神此御琴雨長  
七尺廣さ三尺厚さ一尺五寸故に琴引  
山といふ今土俗琴神山といふ權現坐  
此是則太神なりむ

堤四ヶ所

邊坐

大田 頻原

八幡宮

本社三間、四間門客人二社末社と稱

若宮伐勸請也

稻荷

琴峰權現

天下伐造所此大神なりといふ

浄土寺

禪宗養加山と号也

一念寺

西正寺

正善寺

右三ヶ寺真宗

觀音堂四ヶ所

古城山

城主分明正ら氏

ゆゑ子山

麓子權現此小社あり

堤二ヶ所

土三間

花栗

武太明神

遷坐年曆志き氏

堤七ヶ所

鐵山

長谷

太休寺

禪宗長谷山といふ

堤三ヶ所

都加賀

八幡宮

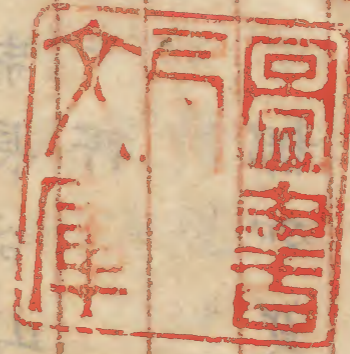
本社一間四方

大歳明神

古城

勝山といふ城主志き氏

鐵山



鐵山  
 日山圖書  
 文庫  
 內閣  
 雲陽志本課所儲屬關佚茲令島根縣就其所藏補寫能義以下  
 七郡及楠澁郡中下二卷但原本无卷數今據地誌撰要郡數條假立  
 卷表如第云明治十年四月

